

第二次世界大戦終戦前後における財団法人斎藤報恩会による 学術研究助成の実際

米澤晋彦

1. はじめに

財団法人斎藤報恩会は、第9代斎藤善右衛門有成（1854～1925）が出捐した300万円を基金として設立され、1923（大正12）年2月20日、文部省、農商務省、内務省によって認可された財団法人である。研究助成に重点を置いた財団法人であり、東北帝国大学の大正末期から昭和初期にかけての研究活動を支えた財団法人としてよく知られている。また、三井報恩会や服部報公会に影響を与えた財団法人と評価されている。

斎藤報恩会の創始期における学術研究助成の実際については明らかになりつつあるが¹⁾、第二次世界大戦終戦前後については、

苦境の中でも「東北地方未開墾不良土壌改良研究」（東北帝国大学・青峰重範）や「重要水産物種苗生産に関する研究」（東北帝国大学農学研究所・今井丈夫ら）、「陸奥湾産ほたてかひ増殖の具体的研究」（東北帝国大学・西岡丑三ら）など、食料生産にかかわる研究を中心に、終戦となった昭和20年（1945）には3万9千500円、昭和21年（1946）には3万5千805円、昭和22年（1947）には1万8千720円の学術研究費助成を行った²⁾

さらに昭和26年（1951）からは学術研究助成事業を再開させる。補助は戦前の水準に比して半額以下になったが、社会的に有意義な斎藤報恩会を絶やしてはならないという、理事長養之助の意向を反映して、報恩主義の象徴とも言える「寄附行為」の灯が再び点ることとなった³⁾

と述べられる程度に止まっており、その実際はどのようになっていたのかほとんど明らかになっていない。また、1923（大正12）年から2007（平成19）年まで斎藤報恩会が学術研究費補助を行った研究の一覧である「斎藤報恩会学術研究費補助一覧」⁴⁾が存在するものの、事実確認が行われているのは1942（昭和17）年までで、第二次世界大戦終戦前後については確認がなされていない。

そこで本稿では、昭和20年度から昭和26年度までを中心に、斎藤報恩会においてどのような議論がなされ、学術研究助成を行っていったのかを、斎藤報恩会所蔵史料を解析することによって明らかにしたい。なお、本稿においては、引用資料における旧字体の漢字は原則として新字体に改め、新字体にないものはそのまま記載した。また原文は縦書きであったが、本稿においては横書きにし、適宜改行を加えた。判読不明な箇所は□で示した。

2. 歳入歳出決算書からみた学術研究助成の実際

斎藤報恩会所蔵史料には、昭和20年度以降の歳入歳出決算書の原本が綴じられた⁵⁾、『昭和二十年度以降 斎藤報恩会 歳入歳出決算書』が存在した。この史料により明らかになった、昭和20年度から昭和26年度における斎藤報恩会による事業費および学術研究事業費中の研究補

助費の割合を表1に示す。

表1. 斎藤報恩会による事業費の推移 (昭和20~26年度、単位：円)

	昭和20年度	昭和21年度	昭和22年度	昭和23年度	昭和24年度	昭和25年度	昭和26年度
第二款 事業費	70,828.96	116,746.32	64,434.64	96,739.49	135,628.37	104,518.00	83,292.00
第一項 学術研究事業費	43,078.68	62,964.72	35,044.64	20,186.49	32,674.37	51,046.00	47,784.00
第一目 俸給	765.00	6,257.00	13,195.00	6,000.00	6,000.00	6,000.00	6,000.00
第二目 雑給	6,380.32	11,876.40	6,728.00	0.00	0.00	0.00	0.00
第三目 印刷費	0.00	0.00	0.00	0.00	2,800.37	22,000.00	17,000.00
第四目 雑費	816.50	1,034.10	2,180.80	210.00	257.00	280.00	30.00
第五目 研究補助費	27,459.11	18,951.25	3,482.44	1,000.00	2,000.00	3,000.00	3,000.00
第六目 博物館費	7,537.75	23,645.97	9,458.40	8,275.49	21,617.00	19,766.00	21,754.00
第七目 科学奨励費	120.00	1,200.00	0.00	4,701.00	0.00	0.00	0.00
第二項 産業開発事業費	25,394.64	26,485.30	14,995.00	38,377.00	51,477.00	26,736.00	17,754.00
第一目 雑給	1,355.64	6,196.30	8,988.00	13,733.00	15,276.00	15,276.00	14,754.00
第二目 雑費	0.00	0.00	5,407.00	23,644.00	34,201.00	9,460.00	0.00
第三目 農業館寄附	20,189.00	19,689.00	0.00	0.00	/	/	/
第四目 産業奨励費	3,850.00	600.00	600.00	1,000.00	2,000.00	2,000.00	3,000.00
第三項 社会事業費	2,355.64	27,296.30	14,395.00	38,176.00	51,477.00	26,736.00	17,754.00
第一目 雑給	1,355.64	6,196.30	8,988.00	13,733.00	15,276.00	15,276.00	14,754.00
第二目 雑費	0.00	0.00	5,407.00	23,644.00	34,201.00	9,460.00	0.00
第三目 日赤寄附	0.00	18,000.00	/	/	/	/	/
第四目 社会事業奨励費	1,000.00	3,100.00	0.00	800.00	2,000.00	2,000.00	3,000.00
学術研究事業費における研究補助費の割合〔%〕	64	30	10	5	6	6	6

出所) 各年度の歳入歳出決算書より作成。

- 1) なくなった項目については斜線を入れた。
- 2) 昭和20年度の歳入歳出決算書において、「本決算ハ昭和十九年度ノ決算ヲモ包含スルモノト見做スヘキモノトス」とあることから、昭和20年度の事業費は昭和19年度、20年度の2年度分の事業費であるといえる。
- 3) 第三項第三目の日赤寄附の項目は昭和22年度以降なくなり、それまで第四目であった社会事業奨励費が第三目となった。
- 4) 第二項第三目の農業館寄附の項目は昭和24年度以降なくなり、それまで第四目であった産業奨励費が第三目となった。
- 5) 第二項の産業開発事業費は、昭和26年度より産業開発奨励費となった。

先に記したように、これまで学術研究費補助については、「昭和20年(1945)には3万9千500円、昭和21年(1946)には3万5千805円、昭和22年(1947)には1万8千720円の学術研究費助成を行った」とされていたが、各年度の歳入歳出決算書によると、昭和20年度は27,459円11銭、昭和21年度は18,951円25銭、昭和22年度は3,482円44銭であり、大きく異なっていたことが明らかになった。また、「昭和26年(1951)からは学術研究助成事業を再開」とされていたが、終戦時の混乱した状況下においても学術研究費補助を継続していたことも明らかになった。さらに、昭和21年度以降学術研究事業費中の研究補助費の割合が大幅に減少し、給与関係を除くと博物館費がそのほとんどを占めるようになったこと、学術研究費補助額は昭和22年度に大幅に減少し、昭和23年度には1,000円と危機的な状況を迎えていたことも明らかになった。

斎藤報恩会の寄附行為が危機的状況にあった時期、報恩会においていかなる議論がなされたのであろうか。次項では理事会会議録及び評議員会議事録により、その内容を明らかにする。

3. 理事会会議録および評議員会議事録からみた学術研究助成の実際

齋藤報恩会所蔵資料には、1945（昭和20）年6月から1956（昭和31）年3月にかけて開催された理事会の会議録が綴じられた『理事会々議録綴 No203～246 自20/6至31/3』および1945（昭和20）年12月以降の評議員会の議事録が綴じられた『昭和二十年十二月 評議員会議事録綴』が存在した。これらの資料を中心にして作成した、1945（昭和20）年6月から1952（昭和27）年3月までに開催された理事会の開催日と参加者およびその内容を表2に、1945（昭和20）年7月10日の仙台空襲以降から1952（昭和27）年3月までに開催された評議員会の開催日とその内容を表3に示す。

表2. 理事会の内容（1945年6月～1952年3月）

年	月日	会議名	出席者	内 容
1945 (昭和20)	6月12日	203回	齋藤圭助 高城畊造 中村梅三 小林巖	<ul style="list-style-type: none"> ・貸付金利息支払いについて ・軍需監理部との賃貸借契約について ・第二次疎開について ・雑種財産縁故拂下の協調について ・齋藤報恩農業館長への見舞金の贈呈について ・ケースの処分について ・軍需監理部長用応接卓椅子貸付について ・元仙台信託株式会社に対する信託および貸付金の履行について
	7月27日	204回	齋藤圭助 高城畊造 佐々木幸助 小林巖	<ul style="list-style-type: none"> ・戦災状況の報告 (齋藤報恩会館の被害、役職員の罹災、金庫の処理および被害、本館災害程度調査と応急対策、戦災保険に関する調査、仮事務所の設置、罹災者見舞いについて、資金一時借り入れ) ・葬儀費用の寄附および弔慰金の贈呈について ・弁護士に対する謝儀について
	8月15日	205回	齋藤圭助 高城畊造 中村梅三 杉谷泰山 小倉強	<ul style="list-style-type: none"> ・戦災損害程度調査の報告 ・応急修繕工事施工についての報告 ・軍需監理部による講堂使用について ・焼失物の調書および始末書について ・評議員に生悦住求馬宮城県知事を推薦することについて ・戦災による退職承認について ・戦災見舞いの追加について ・会計書類その他表簿類焼失の責任を取り提出された辞表の処置について
	9月6日	206回	齋藤養之助 齋藤圭助 高城畊造 中村梅三 杉谷泰山 小林巖	<ul style="list-style-type: none"> ・軍需監理局に対する会館賃貸契約についての報告 ・戦災保険の経過報告 ・阿刀田令造が来所して報恩会の今後の事業方針について意見を述べたことについての報告 ・会館応急修繕のための追加予算を評議員会で書面審議することについて ・農業館長逝去について ・報恩会所有古川住宅又貸しの件について ・幼年学校廃止に伴う貸付ていた鉱物標本箱の返還と若干の標本寄附について ・博物館復興の件について
	10月15日	207回	齋藤養之助 齋藤圭助 高城畊造 杉谷泰山 小林巖 小倉強	<ul style="list-style-type: none"> ・会館修繕工事施行について ・会館転貸について ・総監府第4部との交渉について ・弔慰金贈呈について ・青葉荘外人住宅敷地譲渡について ・古川町住宅転貸について ・香奠を供することについて ・図書整理員採用について ・学術研究部長に小林巖を、産業および社会部長後任に齋藤圭助を推薦することについて

	10月31日	208回	斎藤養之助 斎藤圭助 高城畠造 中村梅三 杉谷泰山	<ul style="list-style-type: none"> ・金庫修繕についての報告 ・香奠贈呈についての報告 ・会館修繕工事についての報告 ・進駐軍展覧用陳列戸棚貸付について ・仙台信託株式会社に対する債権継承について
	11月26日	209回	斎藤養之助 斎藤圭助 高城畠造 中村梅三 杉谷泰山 小林巖 小倉強	<ul style="list-style-type: none"> ・博物館復興について文部省に対する回答の報告 ・会館返還を求めたことについての報告 ・記念品贈呈についての報告 ・会館修繕工事見積について ・評議員に宮城県知事千葉三郎を推薦することについて ・理事補欠に評議員で学術研究部長の小林を推薦することについて ・評議員会開催について
	12月8日	210回	斎藤養之助 斎藤圭助 杉谷泰山 小林巖 小倉強	<ul style="list-style-type: none"> ・会館修繕について ・報恩会事業復興について
	12月20日	211回	斎藤養之助 斎藤圭助 高城畠造 中村梅三 小林巖 小倉強	<ul style="list-style-type: none"> ・会館修繕工事請負について ・役職員その他に対する年末謝儀や賞与等について
1946 (昭和21)	3月8日	212回	斎藤養之助 斎藤圭助 小林巖	<ul style="list-style-type: none"> ・会館修繕工事契約についての報告 ・高城総務部長、産業および社会部長に対する退職慰労金の贈呈について ・報恩会職員に対する物価手当並びに家族手当および臨時生活資金給与について ・会館利用について ・評議員に田中正三郎仙台工業専門学校長を推薦することについて ・評議員推薦に関する評議員会は書面で賛否回答を求めることについて ・旅費規程運用について ・仙台赤十字病治療費補助額交付について ・会館修繕工事監督について ・昭和21年度歳入出予算編成方針について
	4月26日	213回	斎藤養之助 斎藤圭助 中村梅三 小林巖	<ul style="list-style-type: none"> ・香奠贈呈についての報告 ・会館明け渡しについての報告 ・昭和21年度歳入歳出予算案について ・学術研究費補助繰越残金処分について ・事業費補助査定について ・県立斎藤報恩農業館費および赤十字病院費寄附について ・評議員会開催期日について
	5月8日	214回	斎藤養之助 斎藤圭助 中村梅三 小林巖	<ul style="list-style-type: none"> ・昭和21年度斎藤報恩会歳入歳出予算案の評議員会提出について ・昭和21年度学術研究費補助査定案についての説明と評議員会提出について ・昭和21年度産業社会事業費補助査定案の説明と評議員会提出について

	9月28日	215回	齋藤養之助 齋藤圭助 中村梅三 小林巖	<ul style="list-style-type: none"> ・進駐軍による報恩会建物接収の噂についての報告 ・進駐軍による報恩会備え付け絨毯買い上げの動機と経過および買い上げ価格についての報告 ・進駐軍の報恩会所蔵「ラヂエーター」買い上げのため製作所との交渉経過と結果についての報告 ・理事に元齋藤報恩会主事の本田鶴吉、評議員に仙台市長岡崎榮松、東北帝国大学教授伏屋義一郎、河北新聞取締役一力次郎を推薦することについて ・理事および評議員推薦に関する評議員会は書面で賛否回答を求めることについて ・物故役員遺族に弔慰金を贈呈することについて ・退職職員に給与金を贈呈することについて ・職員給与改正について ・庁舎修繕について ・絨毯買い上げの援助者に報酬を贈呈することについて ・県農業館経営について
	12月12日	216回	齋藤養之助 齋藤圭助 中村梅三 本田鶴吉	<ul style="list-style-type: none"> ・庁舎修繕工事についての報告 ・昭和19、20年度事業報告書決算の説明と評議員会提出について ・役員以下に対する謝儀および賞与の贈呈について ・部長以下職員に対する越冬資金の支払いについて
1947 (昭和22)	3月27日	217回	齋藤養之助 齋藤圭助 中村梅三 小林巖 本田鶴吉	<ul style="list-style-type: none"> ・進駐軍宮城軍政府の教育文化課長ヘンリー今岡と対談したことについての報告 ・庁舎修繕第1期工事の進捗状況についての報告 ・昭和21年度歳出予算更正についての ・昭和21年度歳出更正予算を評議員会は書面審議によって承認を求めることについて ・昭和22年度予算編成方針について ・任期満了による監事、評議員の改選は概ね重任を求めることについて ・庁舎修繕工事費の残金の支払いを齋藤養之助から銀行普通預金利率で借用してすることについて ・講堂の復興および利用について ・評議員会開催日時について
	4月26日	218回	齋藤圭助 小林巖 本田鶴吉	<ul style="list-style-type: none"> ・昭和22年度歳入歳出予算案の説明と評議員会提出について ・学術研究費、産業開発事業費、社会事業費の各補助を予算の範囲内において随時決定実施することについて ・報恩会所有の古川町住宅の土地建物売却について ・評議員会開催日時について
	7月26日	219回	齋藤養之助 齋藤圭助 小林巖 本田鶴吉 佐伯孝平	<ul style="list-style-type: none"> ・講堂を除く本館の戦災復旧工事完了とその工費支払状況についての報告 ・講堂の復興についての報告 ・会館一部接収の噂についての報告 ・報恩会所有の古川町住宅の土地建物売却についての報告 ・昭和21年度事業報告案について ・昭和21年度歳入歳出決算について ・昭和21年度事業報告案および歳入歳出決算を評議員会を招集せず書面にて審議することについて ・昭和22年度産業、社会事業補助査定について (「事業継続上」、産業事業として白石郷土工芸研究所の「実用紙布ノ普及東北地方紙漉ノ調査」に600円、社会事業として財団法人力行会の「授産職業補導」に300円の補助を決定) ・退職職員に対する給与金贈呈について
	12月24日	220回	齋藤養之助 齋藤圭助 中村梅三 小林巖 本田鶴吉 佐伯孝平	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度において施行する事業の概要ならびに主な処理事項についての報告 ・講堂の復旧利用について ・役員の欠員を当分補充せず適当な機会に選任補充することについて ・退職職員に対する退職金支給について ・役職員の待遇改善について ・博物館の運営および進駐軍との連絡関係事務処理のため畑井小虎を事務嘱託として委嘱することについて

1948 (昭和23)	2月13日	221回	斎藤養之助 中村梅三 斎藤圭助 小林巖 本田鶴吉 佐伯孝平	<ul style="list-style-type: none"> ・会館1階がCIE図書館として接収されることについて ・昭和22年度歳入歳出追加予算について ・昭和22年度歳入歳出追加予算を評議員会を招集せず書面にて審議することについて
	5月1日	222回	斎藤養之助 中村梅三 斎藤圭助 小林巖 本田鶴吉 佐伯孝平	<ul style="list-style-type: none"> ・昭和23年度歳入歳出予算について ・任期満了による理事、監事を重任することについて ・学術研究、産業、社会事業補助査定を理事会に一任することについて ・東京急行電鉄株式会社割り当ての新会社株式引き受けについて ・蔵王山の建物の保存登記について ・新制中学校理科教師講習会開催について ・評議員会に附議すべき事項を評議員会を招集せず書面にて審議することについて
	8月17日	223回	斎藤養之助 中村梅三 斎藤圭助 小林巖 本田鶴吉 佐伯孝平	<ul style="list-style-type: none"> ・講堂利用についての報告 ・公債の一部を売却することについての報告 ・昭和22年度歳入歳出決算について ・昭和22年度事業報告書案について ・昭和23年度学術研究、産業、社会事業の各補助査定について (学術研究事業として奥津春生に1,000円、産業事業として白石郷土工芸研究所に1,000円、社会事業として力行会に500円の補助を決定) ・貴賓室をCIE図書館に貸与することについて ・報恩会附属便所の建設について ・会館賃貸家賃の値上げについて ・海外の図書館や研究所等との図書交換寄贈にともなう報恩会出版物の再刊行などについて
	9月24日	224回	中村梅三 斎藤圭助 小林巖 本田鶴吉	<ul style="list-style-type: none"> ・会館の講堂および敷地の一部を中央保健所に充てるための借り受けについて
	9月28日	225回	斎藤養之助 斎藤圭助 小林巖 本田鶴吉	<ul style="list-style-type: none"> ・斎藤報恩会館の講堂および敷地の一部を中央保健所に充てるための借り受け申し入れについて
	9月29日	226回	斎藤養之助 中村梅三 斎藤圭助 小林巖 本田鶴吉	<ul style="list-style-type: none"> ・斎藤報恩会館の講堂および敷地の一部を中央保健所に充てるための借り受け申し入れについて
	12月24日	227回	中村梅三 斎藤圭助 小林巖 本田鶴吉 佐伯孝平	<ul style="list-style-type: none"> ・中央保健所充当の会館講堂および敷地の折衝についての報告 ・仙台中央放送局に隣接する報恩会所有土地の売却について ・東北外国語学校へ会館2階を賃貸するか同校を報恩会の事業として吸収合併するかについて
1949 (昭和24)	3月25日	228回	斎藤養之助 中村梅三 斎藤圭助 小林巖 本田鶴吉 佐伯孝平	<ul style="list-style-type: none"> ・昭和23年度歳入歳出追加予算について ・昭和24年度歳入歳出予算について ・昭和24年度学術研究、産業、社会事業補助の査定を理事会に一任することについて ・評議員会を招集せず書面によって審議することについて ・増資新株引き受けについて ・会館建物の賃貸関係ならびに東北外国語学校の問題について

	10月20日	229回	斎藤養之助 中村梅三 斎藤圭助 本田鶴吉	<ul style="list-style-type: none"> 市と県教育委員会に賃貸した建物の賃貸料についての報告 昭和23年度歳入歳出決算について 昭和23年度事業報告書案について 昭和24年度産業、社会事業補助査定について (産業事業として白石郷土工芸研究所に2,000円、社会事業として力行会に2,000円の補助を決定) 3名欠員が生じている評議員に補充として佐々木家寿治宮城県知事を推薦することについて 評議員会を招集せず書面によって審議することについて 報恩会所有株式を斎藤養之助に貸付ることについて
1950 (昭和25)	1月23日	230回	斎藤養之助 中村梅三 斎藤圭助 小林巖 本田鶴吉 佐伯孝平	<ul style="list-style-type: none"> 仙台通商産業局の移転についての報告 CIE 図書館賃貸料についての報告 仙台通商産業局移転後における会館建物の利用について 佐久間男留の学術研究報告書に対する出版補助について
	4月12日	231回	斎藤養之助 中村梅三 斎藤圭助 本田鶴吉 佐伯孝平	<ul style="list-style-type: none"> 特別調達局の建物賃貸料についての報告 CIE 図書館および中央保健所の賃貸料についての報告 昭和24年度歳入歳出追加予算について 昭和25年度歳入歳出予算について 昭和25年度学術研究、産業、社会事業補助査定を理事会に一任することについて 評議員会を招集せず書面によって審議することについて
	7月7日	232回	斎藤養之助 中村梅三 斎藤圭助 本田鶴吉 佐伯孝平	<ul style="list-style-type: none"> 病気見舞金の贈呈についての報告 戦時公債の繰上償還についての報告 昭和24年度歳入歳出決算書について 昭和24年度事業報告書について 任期満了による評議員を重任することについて 評議員会を招集せず書面によって審議することについて 会館賃貸について 会館内一部修理工事施行について 昭和25年度学術研究補助査定について (片倉信光の「刈田郡郷土史の研究」に対して3,000円の補助をすることを決定)
1951 (昭和26)	1月12日	233回	斎藤養之助 中村梅三 斎藤圭助 本田鶴吉 佐伯孝平	<ul style="list-style-type: none"> 県営博物館設置に関しての報恩会に対する交渉等についての報告 会館賃貸料の値上げ要求についての報告 昭和25年度産業、社会事業補助査定について (産業事業として白石郷土工芸研究所に2,000円、社会事業として力行会に2,000円の補助を決定)
	3月30日	234回	斎藤養之助 中村梅三 斎藤圭助 小林巖 本田鶴吉 佐伯孝平	<ul style="list-style-type: none"> 県営博物館設置についての報告 昭和25年度歳入歳出追加予算について 昭和26年度歳入歳出予算について 昭和26年度学術研究、社会、産業事業補助査定を理事会に一任することについて 評議員会を招集せず書面によって審議することについて
	7月7日	235回	斎藤養之助 中村梅三 斎藤圭助 小林巖 本田鶴吉 佐伯孝平	<ul style="list-style-type: none"> 昭和25年度歳入歳出決算について 昭和25年度事業報告書について 当分の間前例により評議員会を招集せず書面によって審議することについて
	9月25日	236回	斎藤養之助 中村梅三 斎藤圭助 本田鶴吉 佐伯孝平	<ul style="list-style-type: none"> 県営博物館設置準備委員会における決議事項の報告と意見交換 昭和26年度学術研究、産業、社会事業補助査定について (学術研究事業として畑井小虎に3,000円以内、産業事業として白石郷土工芸研究所に3,000円以内、社会事業として力行会に3,000円以内の補助を決定)

1952 (昭和27)	1月18日	237回	齋藤養之助 中村梅三 齋藤圭助 本田鶴吉 佐伯孝平	<ul style="list-style-type: none"> ・県営博物館の問題についての報告 ・CIE 図書館の建物賃貸料増額問題についての報告
	3月8日	238回	中村梅三 齋藤圭助 本田鶴吉 佐伯孝平	<ul style="list-style-type: none"> ・固定資産税の減額についての報告 ・昭和26年度歳入歳出追加予算案について ・昭和27年度歳入歳出予算案について ・寄附行為第4条に定める事務所所在地を現在の所在地に改めることについて ・昭和27年度学術研究、社会、産業事業補助査定を理事会に一任することについて ・評議員会を招集せず書面によって審議することについて ・CIE 図書館と東北興業株式会社に対する建物賃貸借契約変更について

出所)『理事会々議録綴 No203~246 自20/6 至31/3』より作成。

表3. 評議員会の内容 (1945年7月10日~1952年3月)

年	月日	会議名	内 容
1945 (昭和20)	9月13日	書面会議	・昭和20年度歳入歳出追加予算について
	9月27日	書面会議	・宮城県知事生悦住求馬を評議員に委嘱することについて
	10月28日	書面会議	・学術研究部長任期満了にともない、小林巖を重任することについて
	12月8日	第85回評議員会	<ul style="list-style-type: none"> ・戦災被害と修理計画、事業の復興等についての報告 ・本館の貸附期限についての質疑 ・佐々木幸助理事死去による補欠として小林学術研究部長を推薦することについて ・高城総務部長辞任による後任として齋藤圭助理事を推薦することについて ・満期となった高城産業及社会部長の後任として齋藤圭助理事を推薦することについて ・生悦住評議員辞任による補充のため千葉三郎知事を推薦することについて
1946 (昭和21)	5月8日	第86回評議員会	<ul style="list-style-type: none"> ・会館修理の進捗状況についての報告 ・評議員の補欠として千葉、田中の承諾を得たことについての報告 ・昭和21年度歳入歳出予算について ・昭和21年度学術研究費補助査定について ・昭和21年度産業および社会事業費補助査定について
	10月25日	書面会議	・理事に元齋藤報恩会主事の本田鶴吉を、評議員に仙台市長岡崎栄松、東北帝国大学教授伏屋義一郎、河北新聞取締役一力次郎を選任することについて
	12月21日	第87回評議員会	<ul style="list-style-type: none"> ・昭和20年度第23回事業報告書について ・昭和20年度歳入歳出決算について
1947 (昭和22)	3月28日	書面会議	・昭和21年度歳出更正予算について
	5月15日	第88回評議員会	<ul style="list-style-type: none"> ・昭和22年度歳入歳出予算について ・昭和22年度学術研究費、産業開発事業費、社会事業費補助を予算の範囲内において随時決定実施することを理事会に一任することについて ・評議員および監事の重任と1名欠員があった監事に齋藤報恩会囑託の佐伯孝平を推薦することについて ・不動産および証券の一部を処分し充用することを理事会に一任することについて
	8月8日	書面会議	<ul style="list-style-type: none"> ・昭和21年度第24回事業報告書について ・昭和21年度歳入歳出決算について
1948 (昭和23)	2月27日	書面会議	・昭和22年度歳入歳出追加予算について
	5月17日	書面会議	<ul style="list-style-type: none"> ・昭和23年度歳入歳出予算について ・理事、監事を重任することについて ・学術研究、産業、社会事業補助査定を理事会に一任することについて

	8月25日	書面会議	・昭和22年度第25回事業報告書について ・昭和22年度歳入歳出決算について
1949 (昭和24)	3月30日	書面会議	・昭和23年度歳入歳出追加予算について ・昭和24年度歳入歳出予算について ・昭和24年度学術研究、産業、社会事業補助査定を理事会に一任することについて
	10月25日	書面会議	・昭和23年度歳入歳出決算について ・昭和23年度第26回事業報告書について ・佐々木知事を評議員に委嘱することについて
1950 (昭和25)	4月15日	書面会議	・昭和24年度歳入歳出追加予算について ・昭和25年度歳入歳出予算について ・昭和25年度学術研究、産業、社会事業補助査定を理事会に一任することについて
	7月20日	書面会議	・昭和24年度歳入歳出決算について ・昭和24年度第27回事業報告書について ・役員重任について
1951 (昭和26)	3月31日	書面会議	・昭和25年度歳入歳出追加予算について ・昭和26年度歳入歳出予算について ・昭和26年度学術研究、産業、社会事業補助査定を理事会に一任することについて
	7月10日	書面会議	・昭和25年度歳入歳出決算書について ・昭和25年度第28回事業報告書について
1952 (昭和27)	3月20日	書面会議	・昭和26年度歳入歳出追加予算について ・昭和27年度歳入歳出予算について ・寄附行為中の事務所所在地の変更について ・昭和27年度学術研究、産業、社会事業補助査定を理事会に一任することについて

出所)『昭和二十年十二月 評議員会議事録綴』および『財団法人斎藤報恩会第二十三回自昭和十九年四月至昭和二十一年三月事業報告書』より作成。

- 1) 書面にて行われたものは、会議名を「書面会議」とした。
- 2) 書面会議の開催日については審議を求めた日としたが、1945(昭和20)年10月28日以前のものについては『昭和二十年十二月 評議員会議事録綴』に綴じられていなかったため、開催日および内容は『財団法人斎藤報恩会第二十三回自昭和十九年四月至昭和二十一年三月事業報告書』によった。
- 3) 1950(昭和25)年7月20日の書面会議については、審議を求めた日が記されていないため、開催日を発議の日である7月20日とした。

仙台空襲以降、1952(昭和27)年3月までに評議員会は20回開催されたが、評議員が招集されたのは4回のみで、ほとんどが書面会議であったことがわかる。先に述べたように、昭和22年度は学術研究費補助額が激減したのであるが、1947(昭和22)年5月15日に開催された第88回評議員会において学術研究費補助を予算の範囲内において随時決定実施することを理事会に一任することを可決して以降は、書面会議のみが行われるようになったのであった。評議員会のほとんどが書面会議になって以降、斎藤報恩会において理事会の果たす役割がより一層重要なものとなっていったといえる。

1945(昭和20)年6月から1952(昭和27)年3月までに36回理事会が開催された。1945(昭和20)年8月15日に開催された第205回理事会は、午前10時半に開会し、午前11時40分に閉会したため、終戦を受けての協議はされなかった。学術研究費補助に関して初めて審議が行われたのは1946(昭和21)年4月26日の第213回理事会であった。第213回理事会では、理事の斎藤圭助から「経済界ノ動揺」によって確かな収入が見通せない状況であるため、予算編成が極めて困難で、前年度繰越金を「主タル財源」にしたことが述べられ、予算案は審議の結果原案通り

承認され、評議員会に提出されることになった。そして、「学術研究補助費繰越残金処分ニ関スル件」および「本会事業補助金査定ニ関スル件」について、次のような議論がなされた。

二、学術研究補助費繰越残金処分ニ関スル件

小林理事従来学術研究費中使用残額ハ之ヲ次年度ニ繰越使用シ得ルコト、ナリ居レリ然ルニ実情ハ数年ニ互リ其儘放置シテ研究中止セル向アリテ甚タ遺憾ナリ此機会ニ於テ昭和十八年以前ノ補助金残額ハ同年度末ヲ以テ打切りトシタシト述ベタルニ対シ各員異議ナク賛成セリ

三、本会事業補助金査定ニ関スル件

小林理事学術研究費ノ補助ハ事業費予算ヲ参案シ嚴選主義ニ依リ之ヲ査定セントスト各員亦大ニ賛同ノ意ヲ表セリ

斎藤理事モ亦産業及社会事業費査定ニ方リ同様ノ趣旨ヲ以テ精選ノ予定ナリト述ブ尚補助査定案ハ何レモ次回ノ理事会ニ提案スルコト、セリ

小林理事とは学術研究部長を務めていた東北帝国大学理学部教授の小林巖である。小林は1940（昭和15）年10月29日、第145回理事会で畑井新喜司の後任として学術研究部長に推薦され、同日に開催された第68回評議員会で承認された。そして1945（昭和20）年11月26日、第209回理事会において理事に推薦され、同年12月8日の第85回評議員会で承認されて以降、学術研究部長と理事という斎藤報恩会の要職を兼任することとなった。そのような小林は使い切らないでそのまま放置される傾向にある学術研究費の「残額」を打ち切ることを提案し、他の理事も賛成したのであった。ついで小林は、学術研究費補助は予算を「参案」して「嚴選主義」によって査定しようとしていると述べ、他の委員も大いに賛同したのであった。「嚴選主義」がどのようなものかは明確ではないが、緊縮財政の折以前とは異なる査定をしようとしたことが窺える。

半月後の1946（昭和21）年5月8日、第86回評議員会の一時間前に開催された第214回理事会においても、学術研究費補助に関して審議が行われた。

一、斎藤理事本年度歳入出予算案ハ前回御審議相成タル別紙第一号議案トシテ評議員会へ提出スベシト承認ヲ求メタリ

次ニ昭和二十一年度事業費補助^{ママ}査案ニツキ学術研究部長ノ御説明ヲ願度ト述ブ

1、小林理事本年度予算ニ依レバ前年度繰越残額ノミニテ新ニ補助スベキ予算ヲ認メズ斯クテハ本会事業ノ成績上ニモ好マシカラヌ結果ヲ生スベキヲ憂フ仍テ前年度繰越金中昭和十九年度以前ノ補助残額ヲ昭和二十一年三月末日ヲ以テ一旦打切りトシ出来得ル丈嚴選主義ニ依リ査定シ別記案ノ通り査定セリト説明ス

尚査定案中オ十六、オ十八、オ二十一ノ各査定ハ之ヲ保留シタシト述ベラレタリ

各員ハ小林部長案ニ賛意ヲ表シ原案^{ママ}トシテ評議員ニ提出スルコト、ナル

小林は学術研究費補助について、新たに補助する予算は認めないというのでは良い結果は出ないのではないかと考え、前年度繰越金のうち昭和19年度以前の補助残額を1946（昭和21年）3月末をもって一旦打ち切りとし、できるだけ「嚴選主義」によって査定したのであった。第

213回理事会では補助残額の打ち切りは昭和18年度以前と提案したのであったが、更に1年度分増やし、より多くの研究を支援しようとしたといえる。16、18、21の研究を保留とした理由については、『理事会々議録綴』においては記されていないが、『評議員会議事録綴』においては、「査定案中大口ノ申□込（16、18、21）ニ対シテハ三分ノ一以下ノ減額トナリ斯克テハ到底計画実行不可能ト思ハル、ヲ以テ之ヲ保留」と、査定額が要求額を大幅に下回ることとなったために、計画の実行が不可能だと考えたためであると記されていた。理事会に提出された昭和21年度の学術研究費補助査定案を表4に示す。

30もの研究に対して補助を決定したのであったが、財政逼迫の折、多くの研究を支援しようとしたといえる。また、これまで終戦前後においては「食料生産に関わる研究を中心に」学術研究費助成を行ったとされていたが、東北帝国大学の農学研究所の研究者らによる研究「水田地帯ニ於ケル経営規模ト電化問題」、「農村電化施設ノ利用面開拓ニ関スル研究」、「農民心理特ニ増産供出等ニ影響ヲ及ホス経済学的心理学的関連性ニ於テノ研究」の他、「農村ニ於ケル淡水魚増産ノ研究」、「養兎並ニ種兎ニ関シ飼育研究」といった研究が見合わせまたは保留になったことや、明らかに農業と関係がないと断定できる研究が3分の2近くを占めていること等から、「食料生産にかかわる研究を中心に」とはいうものの、幅広い分野にわたる研究を支援しようとしたといえる。

翌1947（昭和22）年、斎藤報恩会の財政事情は更に厳しいものとなった。1947（昭和22）年3月27日に開催された第217回理事会において、昭和22年度予算編成方針について次のような議論があった。

表4. 昭和21年度学術研究費補助査定案（単位：円）

	所属	申込者氏名	研究題目		申込額	査定額	記事
1	東北帝大浅虫	■■■■■■■、■■■■■ ■	湖水無気層ノ生物学的研究	継	500	見合	
2	全法文	大脇義一、栗林宇一	国民知能検査ヲ基礎トシテノ個性ニ就テノ研究	継	1,000	800	
3	全法文	古田良一	中世後期東北地方史ノ研究	継	1,500	800	
4	宮師女子	高橋清則、松田多利吉、金清男	郷土ニ於ケル生物及地質鉱物ニ関スル調査研究	継	700	500	
5	東北帝大教養	遠藤沖吉	東北地方ニ於ケル薯類ノ増産ト気象条件トノ関係ニ就テ	継	1,650	1,000	
6	県衛生課	青木大輔	東北地方ノ疫史並ニ防疫史ノ研究	継	1,368.20	700	
7	東北大法文	小林好日	東北方言ノ研究ニ基ク近代国語発達ノ研究	継	1,900	800	
8	宮城女専	大島延次郎	東北地方ニ於ケル中世文献ノ蒐集及其研究	新	800	500	
9	山形鈴川国民	丸山茂	風土ト人文ノ地政学的の相関々係ノ研究主トシテ山形県	新	600	450	
10	鉾山青年	佐々木辰雄	自働製繩機ニ於ケル自働給薬機ノ研究	新	1,500	800	
11	宮師女子	館山甲午	青森県津軽地方ニ遺存シタル古楽平家琵琶ニ於テノ研究	継	1,300	300	
12	山形師範	長井政太郎	山形県内聚落ノ地理学的並社会経済史学的研究並地方文書蒐集	継	1,940	1,000	
13	東北帝大	■■■■■■■	初穀発動機ノ研究	継	3,800	見合	
14	宮城女師	熊谷金男	東北地方ニ於ケル郷土地域開拓ノ地理学的研究	継	1,000	300	
15	仙台工専	奥津春生	宮城県下発達シタル第三紀層ノ地質学的研究	継	800	500	
16	東北大農研	■■■■■■■、■■■■■ ■	水田地帯ニ於ケル経営規模ト電化問題	新	8,000	2,500	留保
17	全	岡田要之助	遊離窒素ノ固定菌ニ関スル研究	新	3,000	1,000	

18	全	■■■■■	農村電化施設ノ利用面開拓ニ関スル研究	新	7,000	1,200	留保
19	全	水島宇三郎、細田友雄	馬鈴薯ノ簡易自家採種ニ関スル研究	新	3,000	1,200	
20	全	青峰重範、前田信寿	東北地方ニ於ケル未開墾地不良土壤ノ改良ニ関スル研究	継	4,500	1,000	
21	東北大女川校	■■■■■	農村ニ於ケル淡水魚増産ノ研究	新	5,000	1,600	留保
22	東北大農研	■■■■■	農民心理特ニ増産供出等ニ影響ヲ及ホス経済学的心理学的関連性ニ於テノ研究	新	6,000	見合	
23	仙台郷土研究会	阿刀田令造	郷土研究	新	1,000	700	
24	山形市農会	真壁仁	黒川能研究	継	500	200	
25	東北帝大	山田龍城、石津照璽	東北地方ニ於ケル特殊教団ノ研究	新	3,500	1,000	
26	福島相馬中学	■■■■■	口承文学ノ研究	新	-	不備	見合
27	盛岡農専	武田進平	御明神演習林ニ於ケル降水量ト流出量トノ関係	継	1,300	600	
28	全	門前弘多	作物人工肥養浸根法ノ研究	新	4,280	1,000	
29	山形高校	安斎徹	蔵王火口湖昭和期活動休止後ノ研究	継	2,348	1,500	
30	岩手岩谷堂高女	山口彌一郎	東北地方農村生活誌ノ採録及研究	新	1,000	300	
31	東北帝大浅虫験	小久保清治、川村輝良	湖水ノ水産増殖ニ関スル研究	新	2,000	500	
32	福島高女	■■■■■	養兎並ニ種兎ニ関シ飼育研究	新	2,500	見合	
33	二高	野邑雄吉	鬼首間欠温泉ノ研究	継	2,500	800	
34	全	■■■■■	陰極線廻析装置ノ研究	新	600	留保	
35	全	■■■■■	染色体数変異ニヨル育種研究	新	4,000	留保	
36	岩手宮古中学	菊池政雄	北上山系ノ植物分類地理研究並ニ北上山系地帯ノ救荒植物調査	新	800	300	
37	仙台高専	横山秀哉	東北地方ニ於ケル禅刹建築ノ研究	継	700	400	
38	全	■■■■■	地震ニヨル架橋建築物ノ初動並ニ初応力ニ関スル理論的研究	新	1,500	留保	
39	二高	有井癸巳雄	東北地方ニ於ケル温泉ノ研究	継	3,120	800	
40	白河女子商業	佐久間男留	白河藩庄屋文書ノ研究	継	100	100	
41	福島経専	川村安太郎、戸村実、宮部菊男、平井伝	東北方言民間語源説研究	新	4,500	1,000	
	計		申込41件 (継20件、新21件) 採択33件 見合5件 留保3件		93,106.20	20,850 25,150	

出所)「昭和二十一年度学術研究費補助査定案」『理事会々議録綴 No203~246 自20/6至31/3』より作成。

- 1) 所属は査定案に記されているままとした。
- 2) 不採用となった研究の申込者氏名は■で示した。
- 3) 16、18、21の研究については、査定額の上から黒字で訂正がされ、備考欄に黒字で「留保」の書き込みがされていた。
- 4) 査定額の合計は赤字で訂正がされていたが、その金額は査定額の合計から黒字で「留保」に訂正された研究の査定額を引いた額となっていた。

一、昭和二十二年度予算編成方針ノ件

斎藤理事本年度歳入見込ミハ公債ノ利子並ニ会館ノ債貸料及其ノ基本財産ヨリノ僅少ナル収入等ニシテ総ジテ約拾貳、参萬円程度ナリ本会事業ノ遂行ハ誠ニ困難ナル現況ナリ各理事ノ忌憚ナキ御意見ヲ承ハリタシト諮ル

中村理事来年度ハ経済界ノ現況ヨリ予算編成上特ニ考慮ヲ要スル点ナリ依ツテ経営上必要ノ最小限度ニ緊縮シ緊急己ヲ得サルモノト思考セラル、モノ、範圍ニ止メ其他ハ中止セラル、ヲ適当トセン

小林理事学術研究補助費ヲ全面的ニ中止スルコト、ナレバ本会ノ存在ヲ忘レラル、結果トナリ甚タ遺憾ナリ、依ツテ特ニ重要ト認ムルモノハ少額ニテモ可ナルヲ以テ之ヲ

継続スル必要アリ而シテ此ノ補助ハ予算ノ許ス範囲ニ於テ隨時決定シタシト述ブ
斎藤理事来年度ノ予算ハ大体各位ノ御意見ニ基キ其ノ趣旨ヲ体シテ極力収支ノ均衡ヲ
得ル様ニ編成シタシト諮ル
全員異議ナク之ヲ決定ス

小林は事業の遂行が困難な状況にあった中で、学術研究費補助を全面的に中止することに強く反対し、少額でも補助を継続することを主張したのであった。そして従来のような期限を定めて希望を募り、査定によって補助を決定するのではなく、予算の許す範囲で随時決定実施するという方法を提案したのであった。

続いて同年4月26日、斎藤圭助、小林、本田鶴吉⁶⁾の3名の理事が参加して開催された第218回理事会において、昭和二十二年度歳入歳出予算案が原案通り評議員会に提出されることが決定した後、次のような議論があった。

一、学術研究費、産業開発事業費、社会事業費ノ各補助ノ件

斎藤理事学術研究費産業開発事業費社会事業費ノ各補助ハ予算ノ範囲内ニ於イテ隨時決定実施シテハ如何ト諮ル

本田理事本案ニ関シテハ本年度ハ之等ニ関スル補助査定案モ出テ居ラヌノデ本件ハ理事会ニ隨時決定実施ノ権ヲ一任セラル、如ク評議員会ニ諮ルヲ要セン

全員異議ナク之ヲ決定ス

この議論により、補助の中止に反対し、少額であったとしても補助を続けることを前理事会で主張した小林の意見が受け入れられたこと、昭和22年度の学術研究費補助査定案は作成されていなかったこと、本田が前回の理事会において小林が提案した補助を随時決定実施するという案を発展させ、補助決定権を理事会に与えることを求めたことが明らかになった。今まで「社会的に有意義な斎藤報恩会を絶やしてはならないという、理事長養之助の意向を反映して、報恩主義の象徴とも言える『寄附行為』の灯が再び点ることとなった」とされていたが、『寄附行為』の灯が絶えなかったのは、小林の働きによるものが大きかったのであった。

この理事会を受けて同年5月15日に開催された第88回評議員会において、議案として「昭和二十二年度学術研究費、産業開発事業費、社会事業費ノ各補助ハ予算ノ範囲内ニ於テ隨時決定実施方理事会一任ノ件」が提案され、斎藤理事が、例年は各補助の査定案について評議員会で審議をしていたが、今年は予算等の関係もあって随時決定実施することを理事会に一任して欲しいと述べ、全員異議なく承認されたのであった。これにより学術研究費補助の査定を理事会に一任し、随時決定実施するという方針が決まり、これに基づいて学術研究費補助が行われたのであった。

昭和22年度から26年度までの学術研究費補助の一覧を表5に示す。

表5. 各年度の学術研究費補助 (昭和22~26年度、単位:円)

	研究種目	研究者名	補助額	交付額	未交付額	備考
昭和22年度	東北温泉の研究	有井癸巳雄	240.80	240.80	0.00	
	東北地方に於ける未開墾不良土壌改良に関する研究	青峰重範他1名	1,000.00	1,000.00	0.00	
	東北地方の疫史並に防疫史の研究	青木大輔	700.00	523.00	177.00	
	郷土研究	阿刀田令造	350.00	0.00	350.00	死亡ニ付キ資格喪失
	蔵王火口湖昭和後期活動休止後の研究	安斎徹	1,500.00	0.00	1,500.00	
	宮城県児童語の研究	阿部三郎	398.02	0.00	398.02	
	東北地方に於ける薯類増産と気象条件との関係に就いて	遠藤沖吉	824.00	800.00	24.00	研究完了補助停止
	重要水産物種苗生産に関する研究	今井丈夫	7.40	0.00	7.40	研究完了補助停止
	金属カルボニルに関する物理学的研究	石川総雄	107.33	0.00	107.33	研究完了補助停止
	国民知能検査を基礎としての個性についての研究	大脇義一	685.34	0.00	685.34	
	遊離窒素の固定に関する研究	岡田要之助	1,000.00	0.00	1,000.00	死亡ニ付キ資格喪失
	北上山系昆虫調査特に水棲昆虫の分類学的研究他一件	高松好文	4,500.00	0.00	4,500.00	転出ニ付キ資格喪失
	東北方言に関する語源説研究	川村安太郎	200.00	200.00	0.00	
	北上山系地帯の救荒植物の研究他一件	菊池政雄	300.00	0.00	300.00	
	東北方言の研究に基く近代国語発達研究	小林好日	187.40	0.00	187.40	死亡ニ付キ資格喪失
	湖水無機層の生物学的研究	小久保清治	100.00	0.00	100.00	
	自働製繩機に於ける自動給薬機の研究	佐々木辰雄	400.00	0.00	400.00	
	青森県津軽地方に遺存されたる古楽琵琶の研究	館山申午	15.00	0.00	15.00	研究完了補助停止
	陸奥湾産帆立貝増産の具体策研究	山本護太郎他2名	5,527.85	0.00	5,527.85	
	鬼首間欠泉の研究	野邑雄吉	487.70	0.00	487.70	
	蛍光物質の研究	福本喜繁	800.00	0.00	800.00	
	中世後期東北地方史の研究	古田良一	330.64	330.64	0.00	
	福島県を中心とする経済史資料文献	藤田五郎	70.00	0.00	70.00	研究完了補助停止
	馬鈴薯簡易自家採種に関する研究	水島宇三郎	388.00	388.00	0.00	
	東北地方亜炭の諸性質	宮崎行蔵	147.06	0.00	147.06	研究完了補助停止
	東北地方に於ける特殊教団の研究	山田龍城	1,000.00	0.00	1,000.00	
	仙台医籍考の研究	山形敏一	500.00	0.00	500.00	
	三陸沿岸地帯の石器時代遺跡の分布と地形地質並地表との関係	曾根廣	120.00	0.00	120.00	研究完了補助停止
	東北地方民謡舞曲との音楽的研究	武田忠一郎	8.00	0.00	8.00	全
	陸前地方彌生式並に原史研究	村主岩吉	0.42	0.00	0.42	全
東北地方に於ける恒利建築の研究	横山秀哉	7.80	0.00	7.80	全	
計		21,902.96	3,482.44	18,420.32		
昭和23年度	東北地方の疫史並防疫史の研究	青木大輔	177.00	0.00	177.00	研究完了補助停止
	蔵王火口湖昭和后期活動休止後の研究	安斎徹	1,500.00	0.00	1,500.00	
	宮城県児童語の研究	阿部三郎	398.00	0.00	398.00	研究完了補助停止
	国民知能検査を基礎としての個性についての研究	大脇義一	685.34	0.00	685.34	
	仙台市地下に発達する深層亜炭深層地下水の地質学的研究	奥津春生	1,000.00	1,000.00	0.00	
	北上山系地帯の救荒植物の研究他1件	菊池政雄	300.00	0.00	300.00	研究完了補助停止
	湖水無気層の生物学的研究	小久保清治	100.00	0.00	100.00	
	自働製繩機に於ける自働給薬機	佐々木辰雄	400.00	0.00	400.00	研究完了補助停止
	陸奥湾産帆立貝増産の具体策研究	山本護太郎他2名	5,527.85	0.00	5,527.85	
	鬼首間欠泉の研究	野邑雄吉	487.70	0.00	487.70	
	蛍光物質の研究	福本喜繁	800.00	0.00	800.00	研究完了補助停止
東北地方に於ける特殊教団の研究	山田龍城	1,000.00	0.00	1,000.00	〃	
仙台医籍考の研究	山形敏一	500.00	0.00	500.00	〃	
計		12,875.89	1,000.00	11,875.89		
昭和24年度	蔵王火口湖昭和后期活動休止後の研究	安斎徹	1,500.00	0.00	1,500.00	
	白川藩庄屋文書の研究	佐久間男留	1,000.00	1,000.00	0.00	研究完了
	国民知能検査を基礎としての個性についての研究	大脇義一	685.34	0.00	685.34	〃
	湖水無気層の生物学的研究	小久保清治	100.00	0.00	100.00	〃
	仙台近郊の深層地下水の地質学的研究	奥津春生	1,000.00	1,000.00	0.00	
	陸奥湾産帆立貝増産の具体策研究	山本護太郎他2名	5,527.85	0.00	5,527.85	
鬼首間欠泉の研究	野邑雄吉	487.70	0.00	487.70	研究完了	
計		10,300.89	2,000.00	8,300.89		
昭和25年度	蔵王火口湖昭和后期活動休止後の研究	安斎徹	1,500	0	1,500	
	仙台近郊の深層地下水の地質学的研究	奥津春生	1,000	0	1,000	
	陸奥湾産帆立貝増産の具体策研究	山本護太郎他2名	5,527	0	5,527	
	刈田郡地方史の史的研究	片倉信光	3,000	3,000	0	
計		11,027	3,000	8,027		

昭和26年度	蔵王火口湖昭和后期活動休止後の研究	安斎徹	1,500	0	1,500	
	仙台近郊の深層地下水の地質学的研究	奥津春生	1,000	0	1,000	
	男鹿半島鮎川層の化石についての研究	畑井小虎	3,000	3,000	0	
	刈田郡郷土史の研究	片倉信光	3,000	0	3,000	
	陸奥湾産帆立貝増産の具体策研究	山本護太郎他2名	5,527	0	5,527	
	計		14,027	3,000	11,027	

出所) 各年度の事業報告書より作成。

1) 昭和25年度より、円未満は記載されなくなった。

補助が認められても、補助金の交付が確認できない研究が存在したことが分かるが、その理由については不明である。

4. おわりに

本稿では今までほとんど明らかにされていなかった第二次世界大戦終戦前後における斎藤報恩会による学術研究助成の実際の一端を、斎藤報恩会所蔵史料を解析することにより明らかにした。

昭和20年度から昭和26年度までの学術研究費補助額については、今までいわれてきた補助額と実際は大きな隔たりがあったことが明らかとなった。斎藤報恩会による学術研究費補助は、終戦前後の混乱期においても絶えることなく行われていたことも明らかになったが、その補助は食料生産に関わる研究以外にも幅広く行われていたのであった。さらに、補助が認められながらも、補助金の交付が確認できない研究が存在したことも明らかになった。その理由を明らかにすることは、今後の課題である。

次に昭和22年度の学術研究費補助は中止の危機に直面していたことが明らかになった。その危機を救ったのが学術研究部長兼理事であった東北帝国大学の小林巖であった。小林は学術研究費補助の全面中止に反対して少額でも補助を継続することを主張し、その結果、補助が継続して行われるようになったのであった。『寄附行為』の灯が絶えなかったのは小林の働きによるものが大きかったのであった。

また、1945（昭和20）年7月10日の仙台空襲以降開催された評議員会のほとんどは書面会議であったことも明らかになった。特に1947（昭和22）年5月15日の第88回評議員会において学術研究費補助の予算範囲内での随時決定実施を理事会に一任することを可決して以降は、書面会議のみが行われるようになったのであった。そのためそれ以降は斎藤報恩会において理事会の果たす役割がより一層重要なものとなっていったのであった。

学術研究費補助の査定は、斎藤報恩会の財政が危機的状況となった昭和22年度から、理事会に一任し、随時決定実施するという方法に変わった。その基となる随時決定実施の原案を出したのが小林であったということも明らかになった。終戦直後の斎藤報恩会における学術研究助成において、その中心的役割を果たしたのが小林であったのである。

注

- 1) 米澤晋彦・吉葉恭行「財団法人による研究助成の実際－戦前の斎藤報恩会を事例として－」『東北大学史料館紀要』第5号、2010、pp. 17-27、米澤晋彦・吉葉恭行「創始期の斎藤報恩会と東北帝国大学－学術研

- 究費補助審査の変遷を中心に－』『東北大学史料館紀要』第6号、2011、pp. 38-51、米澤晋彦・吉葉恭行「財団法人の学術研究助成についての一考察－創始期の斎藤報恩会による学術研究費補助の変遷と東北地方学術振興を中心に－』『東北大学史料館紀要』第7号、2012、pp. 1-12、米澤晋彦・吉葉恭行「創始期の斎藤報恩会による学術研究助成の実際－八木秀次らの『電気通信法ノ研究』を中心に－』『東北大学史料館紀要』第8号、2013、pp. 14-24、拙著「財団法人斎藤報恩会の設立と研究者たちの関わりについての一考察」『東北大学史料館紀要』第9号、2014、pp. 29-44。
- 2) 「財団法人斎藤報恩会のあゆみ」編集委員会編『財団法人斎藤報恩会のあゆみ：財団85年・博物館75年』、財団法人斎藤報恩会、2009、p. 43。
 - 3) 同上書、p. 45。
 - 4) 同上書、pp. 101-153。
 - 5) 正確には各年度の歳入歳出決算書の原案である。
 - 6) 本田は宮城県柴田郡の郡長を1924（大正13）年に1年ほど勤めた人物で、「元斎藤報恩会主事」という肩書きで1946（昭和21）年9月28日に開催された第215回理事会で理事に推薦され、就任した。